

# 腎機能障害時のリネゾリドおよびその主要代謝物の 薬物動態学的パラメータの解析

著者	橋本 さつき
著者別表示	Hashimoto Satsuki
雑誌名	平成24(2012)年度 科学研究費補助金 奨励研究 研究成果報告書
巻	2012
ページ	1p.
発行年	2020-05-15
URL	<a href="http://doi.org/10.24517/00060702">http://doi.org/10.24517/00060702</a>



腎機能障害時のリネゾリドおよびその主要代謝物の薬物動態学的パラメータの解析

Research Project

Project/Area Number

24926002

Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Scientists

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

薬学 I

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

橋本 さつき 金沢大学, 附属病院, 薬剤師

Project Period (FY)

2012

Project Status

Completed (Fiscal Year 2012)

Budget Amount \*help

¥600,000 (Direct Cost: ¥600,000)  
Fiscal Year 2012: ¥600,000 (Direct Cost: ¥600,000)

Keywords

抗菌薬 / 薬物血中濃度モニタリング / 腎機能障害

Research Abstract

本研究は、腎機能障害時のリネゾリド(LZD)およびその主要代謝物の薬物動態学的パラメータを明らかにすることを目的として実施した。MRSA感染症(疑い例を含む)と診断され、LZD1200mg/dayを投与された症例のうち同意の得られた症例についてLZDおよびその主要代謝物(MetA)の血中濃度および定常状態における尿中排泄率をLiquid Chromatography/Mass Spectrometryを用いて測定した。また電子カルデにより臨床検査値を調査した。なお腎機能障害の程度は「CKD診療ガイド」にしたがって分類し、急性腎不全症例は含まない。

平成24年度までに完了した症例について中間解析をおこなったところ、eGFR区分(mL/min/1.73m<sup>2</sup>)でG1,G2,G3,G4にあたる症例数はそれぞれ7,6,1,1例であった。LZDおよびMetAの平均トラフ濃度、投与期間中の最高血中濃度とともに腎機能障害が高度になるほど上昇する傾向が見られたLZDおよびMetAの尿中排泄率については腎機能の程度による一定の傾向は見られなかった。血小板減少率は腎機能低下例で上昇する傾向が見られ、LZDあるいはMetAの血中濃度との関連が示唆された。血小板減少の程度はGrade1～2であり、投与中止により全例で回復した。

本研究の症例中に、抗結核薬のリファンピシンを併用された症例が複数存在したが、いずれもリネゾリドの血中濃度の有意な低下がみられた。この現象は2009年の添付文書の改訂でも指摘されていることから、本年度、ラットモデルを用いて予備的な検討も開始した。

本研究は、LZDおよび主要代謝物の血中濃度をモニタリングすることにより有効治療域の維持や副作用回避のために有用であり、LZDの最適治療に貢献できるものと考えられる。

Report (1 results)

2012 Annual Research Report

Research Products (4 results)

All	2013	2012
All	Presentation	
[Presentation] リネゾリドの体内動態に対するリファンピシンの影響	2013 ▼	
[Presentation] リファンピシン併用によるリネゾリドの体内動態変動	2012 ▼	
[Presentation] リファンピシン併用時のリネゾリドの体内動態変動	2012 ▼	
[Presentation] Drug interaction between orally administered linezolid and rifam picin in rats and human	2012 ▼	

URL: https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-24926002/